

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

観光施策の基礎資料とすることを目的として、高知県内の観光地で四季ごとにアンケート調査を実施し、観光客の動向を把握するとともに調査結果の分析を行った。

調査精度の均一化を図るため、調査の時間帯を10時から17時まで偏りがないように調整しながら、1グループに1名（1回答）を徹底した対面聞き取り方式により調査を実施した。

とりまとめにあたっては、アンケート調査に基づく全般的な傾向等について記載するとともに、それぞれの調査項目について、その特徴的な事項の説明を加えた。

なお、暦年調査のため、参考資料は冬春夏秋の順に表示している。

● 調査場所（10ヶ所）

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川観光開発遊覧船乗場、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬期：平成23年12月31日～平成24年3月3日
- ・ 春期：平成24年4月28日～平成24年5月26日
- ・ 夏期：平成24年8月4日～平成24年9月2日
- ・ 秋期：平成24年10月6日～平成24年11月4日

※冬期の四万十川観光開発遊覧船乗場、夏期のモネの庭、アンパンマンミュージアムでは、1日で十分なサンプル数を得ることができず、2日間調査を行っている。

● 平成 24 年度観光統計調査の特徴

県内旅行日数は前年同様の 2.0 日。

日帰り客と宿泊客の割合(表 3-1)は、「1泊2日」旅行が前年比 3.0 ポイント増の 41.9% となり、「3泊4日」が 0.2 ポイント増の 4.3%、「4泊5日」が 0.1 ポイント増の 2.1% となり、「日帰り」旅行が 1.1 ポイント減の 35.9%、「2泊3日」が 1.6 ポイント減の 13.3%、「5泊6日」以上が 0.6 ポイント減の 2.5% となった。結果的に、県内旅行の平均日数(図 5-1)は前年同様の 2.0 日となった。

中四国からの入込割合が増加。わざわざ高知で宿泊。

発地ブロック別入込割合(参考 3)では、21 年度調査から減少傾向にあった中四国からの旅行者が増加した。「四国」からの旅行者は、前年に比べて 3.2 ポイント増加、「中国」からの旅行者は 1.1 ポイント増加した。

また、発地別県内旅行日数割合(参考 8)を見ると、前年に比べ、中四国からの旅行者の「日帰り」割合が減少し、「1泊2日」割合が増加しており、「日帰り」が可能な地域からの旅行者の宿泊が増加している。

平均消費額は 1,523 円の増加。飲食費の増加が目立つ。

県内平均消費額(図 10-1)は、26,065 円で、前年比 1,523 円の増加となった。その内訳(参考 13)を見ると、「飲食費」が前年比で約 790 円増加、「土産代」が約 550 円増加、「交通費」が約 330 円増加、「宿泊費」が約 140 円増加、入場料を含む「その他」が約 280 円減少となった。

また、飲食費は年代別消費額費目別割合(表 10-4)で横ばいとなった 20 代と 40 代をのぞくと、すべての年代で増加となっていることから、旅行者の食への関心の高さがうかがえる。

旅行形態は「家族」が減少。「友人知人」が増加へ。

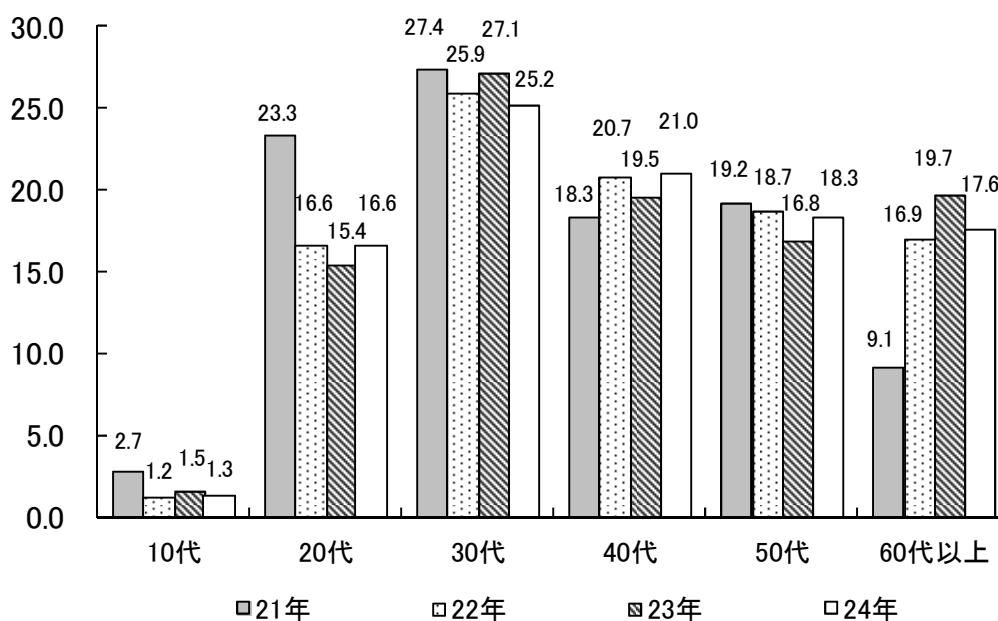
年代別旅行形態割合(表 8-1)が、前年と比較すると「家族」が全体で 7.4 ポイント減少し、「友人知人」が 4.5 ポイント増加となった。年代別に見ると、「家族」がすべての年代で減少、「友人知人」は 20 代をのぞいたすべての年代で増加した。

2 年代別入込

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [24 年、過去 3 年間]

年代 \ 年	21年 (n=2362)	22年 (n=2967)	23年 (n=2929)	24年 (n=2869)	対前年比 24年/23年
10 代	64	36	44	38	86.7%
	2.7	1.2	1.5	1.3	
20 代	551	494	452	476	107.8%
	23.3	16.6	15.4	16.6	
30 代	646	768	794	722	93.0%
	27.4	25.9	27.1	25.2	
40 代	432	615	570	601	107.7%
	18.3	20.7	19.5	21.0	
50 代	453	554	492	526	108.9%
	19.2	18.7	16.8	18.3	
60代以上	216	500	577	506	89.3%
	9.1	16.9	19.7	17.6	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [24 年、過去 3 年間]



(参考1) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [24年、過去2年間]

年代	年	平成22年 (n=2967)		平成23年 (n=2929)		平成24年 (n=2869)	
		男	女	男	女	男	女
10代		16	20	27	17	23	15
		44.4	55.6	61.4	38.6	60.5	39.5
20代		251	243	244	208	269	207
		50.8	49.2	54.0	46.0	56.5	43.5
30代		465	303	446	348	442	280
		60.5	39.5	56.2	43.8	61.2	38.8
40代		406	209	349	221	392	209
		66.0	34.0	61.2	38.8	65.2	34.8
50代		361	193	312	180	329	197
		65.2	34.8	63.4	36.6	62.6	37.4
60代以上		328	172	367	210	335	171
		65.6	34.4	63.6	36.4	66.2	33.8
計		1827	1140	1745	1184	1790	1079
		61.6	38.4	59.6	40.4	62.4	37.6

年代別旅行者割合をみると、対前年比では、20代、40代、50代が増加し、10代、30代、60代以上が減少した。

今回調査だけで年代別割合をみると、30代が25.2%と最も多く、次いで40代の21.0%、50代の18.3%となっている。

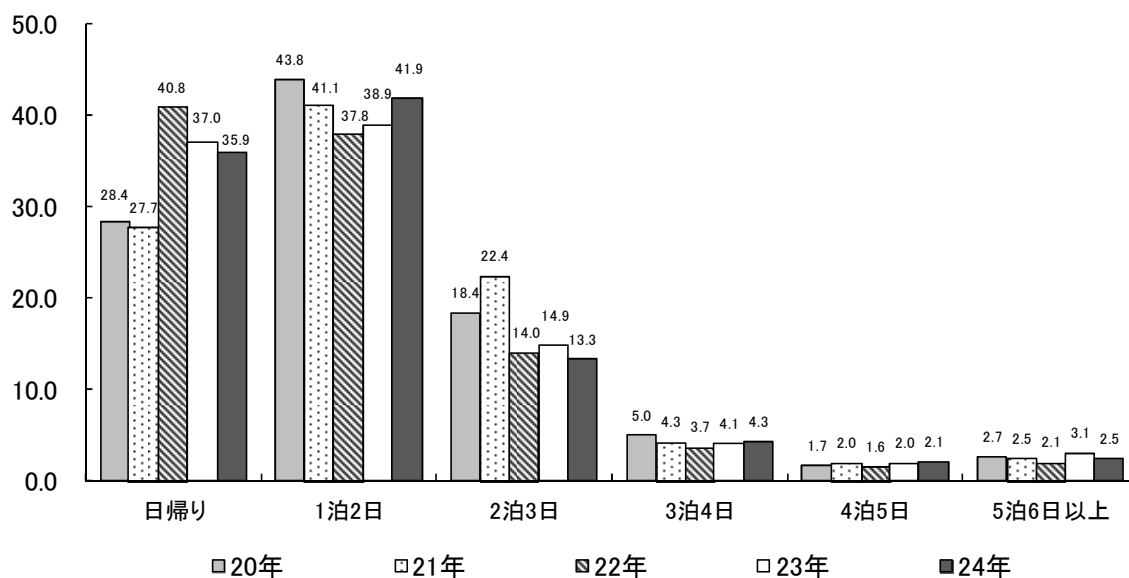
男女比は、男性が62.4%、女性が37.6%となっており、女性の割合が前年調査から2.8ポイント減少している。年代別でみた男性の割合は、60代以上の66.2%が最も多く、20代の56.5%が最も少なくなっている。

3 日帰り客と宿泊客

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [24 年、過去 4 年間]

年	旅行日数					
	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
20年 (n=2352)	668	1029	432	118	41	64
	28.4	43.8	18.4	5.0	1.7	2.7
21年 (n=2362)	655	971	528	102	48	58
	27.7	41.1	22.4	4.3	2.0	2.5
22年 (n=2967)	1212	1123	415	109	47	61
	40.8	37.8	14.0	3.7	1.6	2.1
23年 (n=2929)	1084	1140	437	119	58	91
	37.0	38.9	14.9	4.1	2.0	3.1
24年 (n=2869)	1029	1201	381	125	61	72
	35.9	41.9	13.3	4.3	2.1	2.5

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [24 年、過去 4 年間]



(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [24 年、23 年]

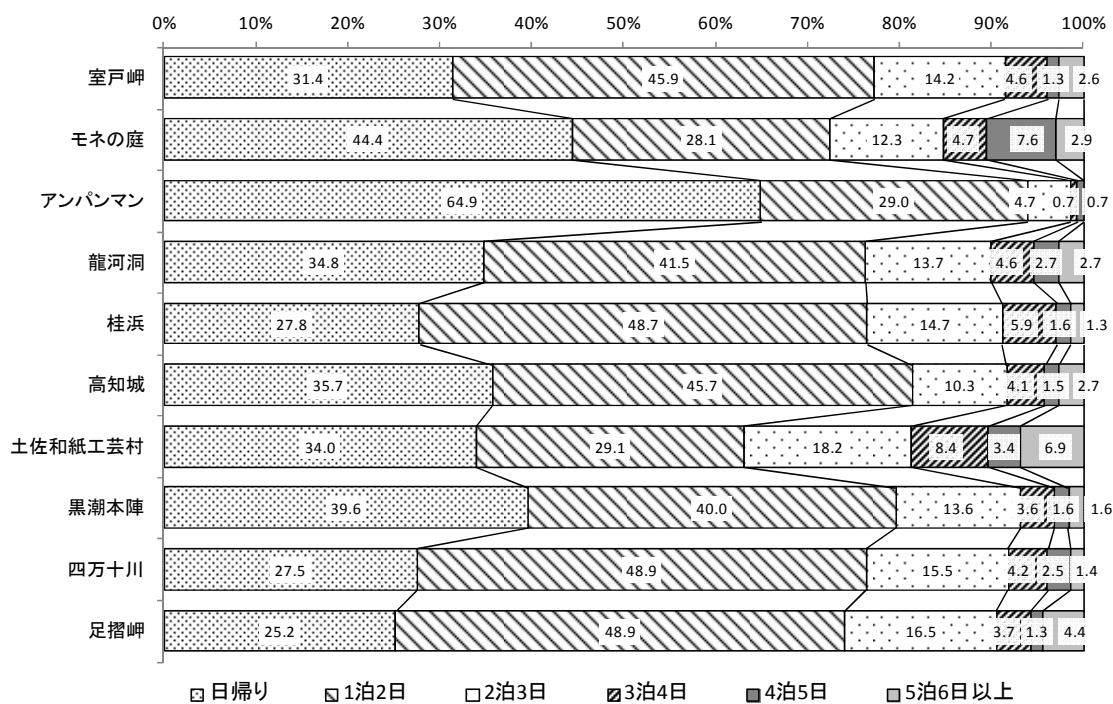
		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	23年	289 41.5	245 35.2	90 12.9	33 4.8	13 1.9	26 3.7
	24年	217 37.4	242 41.6	64 11.0	30 5.2	14 2.4	14 2.4
春	23年	313 37.5	330 39.5	138 16.5	22 2.6	16 1.9	17 2.0
	24年	305 39.6	319 41.4	94 12.2	22 2.9	13 1.7	17 2.2
夏	23年	204 27.9	300 41.0	135 18.5	42 5.8	20 2.7	30 4.1
	24年	217 28.4	321 42.0	118 15.4	50 6.5	26 3.4	33 4.3
秋	23年	278 41.7	265 39.8	74 11.1	22 3.3	9 1.4	18 2.7
	24年	290 38.5	319 42.4	105 13.9	23 3.0	8 1.1	8 1.1

日帰り客と宿泊客の割合を平成 20 年度の調査から通してみると、「4泊5日」旅行の割合は過去最大となり、「2泊3日」旅行の割合は過去最低となっている。

前年との比較では、「日帰り」が 1.1 ポイント減、「1泊2日」が 3.0 ポイント増、「2泊3日」が 1.6 ポイント減、「3泊4日」が 0.2 ポイント増、「4泊5日」が 0.1 ポイント増などと『宿泊客割合の増加』傾向が強まっている。

日帰り客と宿泊客割合の四季別データを前年比較すると、冬期は「1泊2日」が前年より 6.4 ポイント増と目立って多くなっている。春期は「日帰り」が 2.1 ポイント増、宿泊客では「1泊2日」が 1.9 ポイント増、「2泊3日」が 4.3 ポイント減少している。夏期は「2泊3日」の割合が 3.1 ポイント減少している。秋期は「日帰り」が 3.2 ポイントの減少、宿泊客では「2泊3日」が 2.8 ポイント増という結果となっている。

(参考 2) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [24 年]



調査地別で日帰り客と宿泊客の割合（参考 2）をみると、アンパンマンミュージアムでは「日帰り」の割合が半数を超え、64.9%を占めている。一方で桂浜、四万十川、足摺岬では、「日帰り」が30%を下回っている。また、土佐和紙工芸村では、「2泊3日」以上の割合が、他の調査地点と比べて目立って多く、合わせて36.9%となっている。

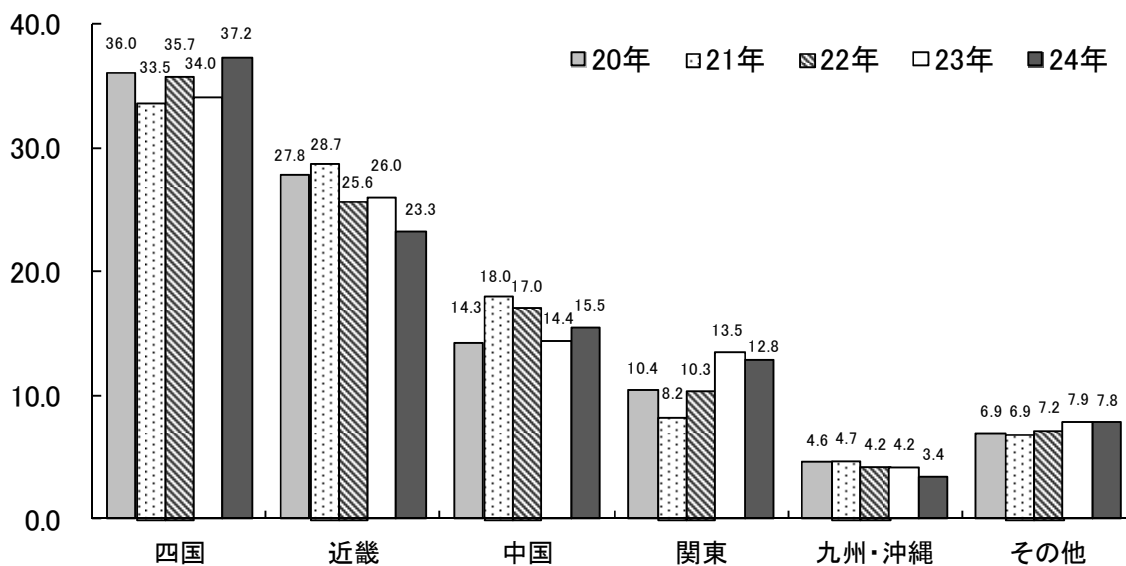
4 発地ブロック別入込

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [24 年、過去 4 年間]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	その他
20年 (n=2352)	847 36.0	653 27.8	336 14.3	244 10.4	109 4.6	163 6.9
21年 (n=2362)	791 33.5	679 28.7	426 18.0	193 8.2	111 4.7	162 6.9
22年 (n=2967)	1059 35.7	759 25.6	505 17.0	306 10.3	124 4.2	214 7.2
23年 (n=2929)	995 34.0	762 26.0	423 14.4	395 13.5	124 4.2	230 7.9
24年 (n=2869)	1066 37.2	669 23.3	446 15.5	368 12.8	97 3.4	223 7.8

※四国は高知県を除く(以下この項において同じ)。

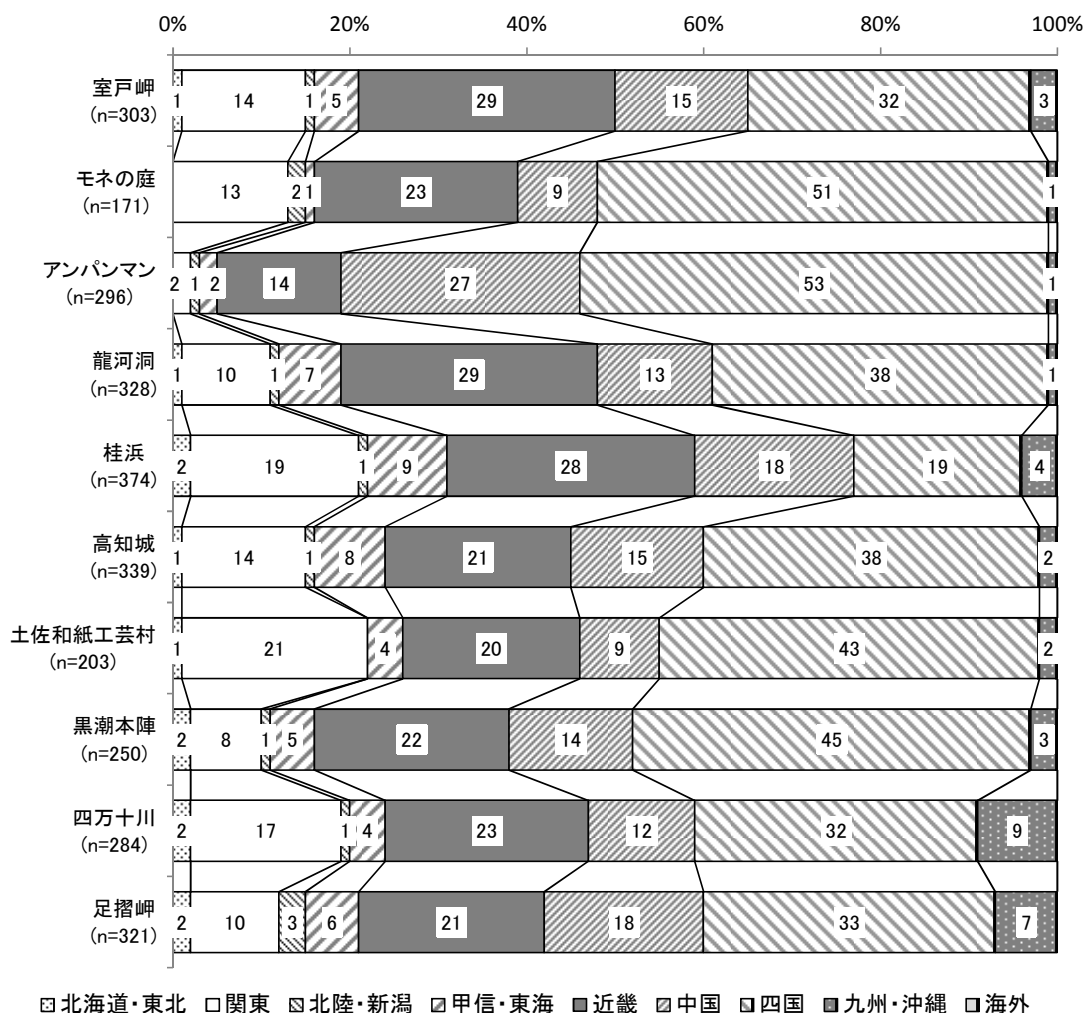
(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [24 年、過去 4 年間]



(参考 3) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [24 年、過去 4 年間 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・沖縄	甲信・東海	北陸・新潟	東北	北海道	海外
20年	847	653	336	244	109	123	18	13	9	0
(n=2352)	36.0	27.8	14.3	10.4	4.6	5.2	0.8	0.5	0.4	0.0
21年	791	679	426	193	111	117	20	20	5	0
(n=2362)	33.5	28.8	18.0	8.2	4.7	5.0	0.8	0.8	0.2	0.0
22年	1059	759	505	306	124	165	26	16	7	0
(n=2967)	35.7	25.6	17.0	10.3	4.2	5.6	0.9	0.5	0.2	0.0
23年	995	762	423	395	124	157	27	21	20	5
(n=2929)	34.0	26.0	14.4	13.5	4.2	5.4	0.9	0.7	0.7	0.2
24年	1066	669	446	368	97	154	32	20	17	0
(n=2869)	37.2	23.3	15.5	12.8	3.4	5.4	1.1	0.7	0.6	0.0

(参考 4) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [24 年]



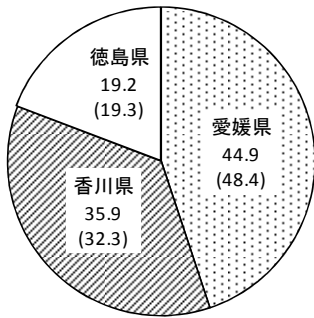
発地ブロック別入込割合をみると、減少傾向にあった中国地方からの旅行者の割合が3年ぶりに増加している。四国（高知県を除く：以下同様）からの旅行者は過去5年間の中でもっとも多くなっている。（参考3）

前年との比較では、四国が3.2ポイント増、中国が1.1ポイント増となり、近畿が2.7ポイント減、九州・沖縄が0.8ポイント減、関東が0.7ポイント減となっている。

調査地別での入込割合を発地ブロックで見ると（参考4）、四国からの入込がアンパンマンミュージアムでは53%、モネの庭で51%と半数を超えている。四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合をみると、アンパンマンミュージアム94%、モネの庭83%、黒潮本陣81%、龍河洞の80%などが多くなっている。人口の多い関東・近畿ブロック合計では、桂浜が47%と最も多く、室戸岬の43%、土佐和紙工芸村が41%、四万十川が40%と続いている。

なお、調査地別の入込割合では、四国が9地点、近畿が1地点で一位となっている。同二位は、近畿が7地点、関東が2地点中国と四国がそれぞれ1地点となっている。（桂浜は関東と四国が同率2位）

(図 4-3) ブロック別・四国(%)

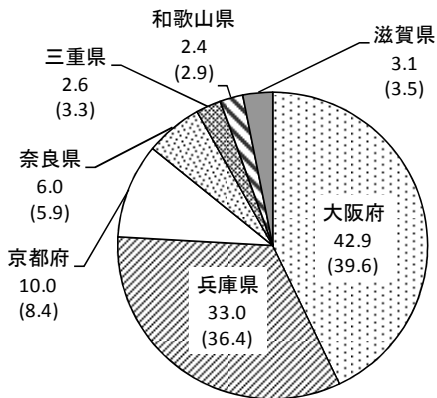


()内の数値は 23 年

前年と比べ、愛媛が 3.5 ポイント減、徳島が 0.1 ポイント減、香川が 3.6 ポイント増となった。

愛媛は全体の入込割合で一位、また 5 つの調査地において入込割合の一位となり、特に土佐和紙工芸村では 30% を占めた。香川は全体の二位、また 4 つの調査地において入込割合の一位となっている。徳島は全体の六位という結果となっている (参考 5)。

(図 4-4) ブロック別・近畿(%)

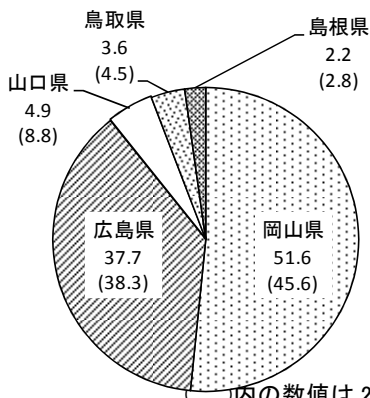


()内の数値は 23 年

前年と比べ、大阪が 3.3 ポイント増、京都が 1.6 ポイント増、奈良が 0.1 ポイント増となった。一方、兵庫が 3.4 ポイント減、三重が 0.7 ポイント減、和歌山が 0.5 ポイント減、滋賀は 0.4 ポイント減となった。大阪と兵庫の 2 府県で 75.9% と、近畿ブロックの四分之三を占めている。

大阪は全体の入込割合で三位、桂浜と室戸岬の一位、四万十川で二位となっている。兵庫は全体の五位、調査地別では龍河洞、桂浜、室戸岬などで多くなっている (参考 5)。

(図 4-5) ブロック別・中国(%)



()内の数値は 23 年

前年と比べ、岡山が 6.0 ポイント増。山口が 3.9 ポイント減、鳥取が 0.9 ポイント減、広島と島根が 0.6 ポイント減となっている。岡山が増加し、他 4 県はすべて減少となっている。岡山と広島の 2 県で 89.3% と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で四位、調査地別では桂浜で二位となっている。広島は全体の七位、調査地別では足摺岬、アンパンマンミュージアムなどで多いという結果となっている (参考 5)。

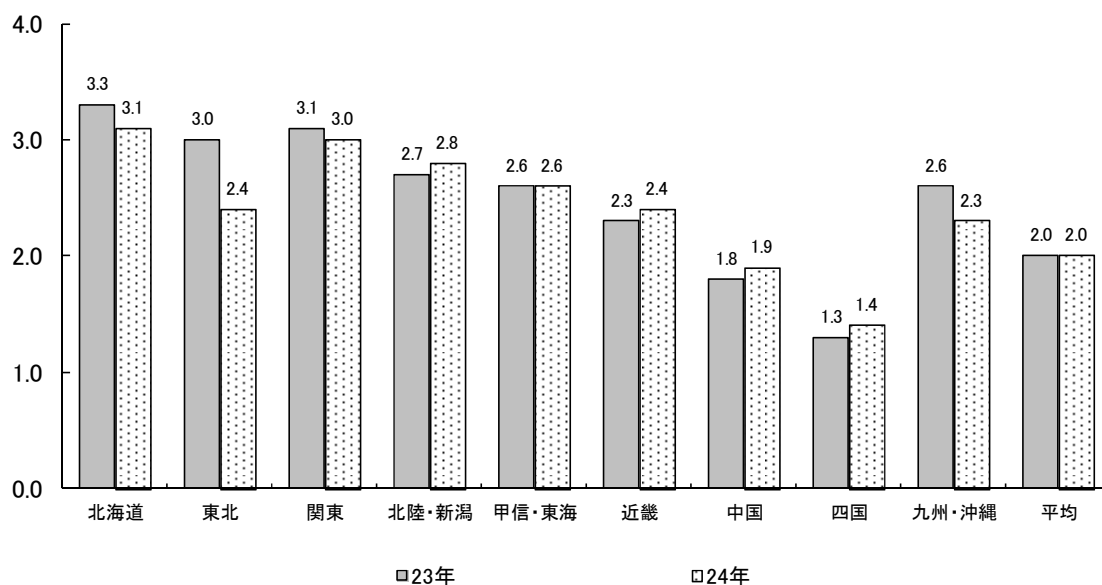
(参考5) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [24年]

発地	調査地	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
	県外合計	303	171	296	328	374	339	203	250	284	321	2869	-
北海道・東北	北海道	0	0	0	3	1	3	0	2	5	3	17	
	青森県	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	
	岩手県	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	4	
	宮城県	1	0	0	0	1	0	1	1	0	3	7	
	秋田県	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	
	山形県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	福島県	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4	
北海道・東北計	3	0	0	3	8	4	2	5	6	6	37	-	
関東	茨城県	2	0	0	0	5	2	0	0	3	2	14	
	栃木県	0	1	0	1	2	0	0	0	3	0	7	
	群馬県	0	0	0	1	2	3	1	0	2	0	9	
	埼玉県	7	7	1	3	11	5	6	0	8	4	52	
	千葉県	6	1	0	5	14	8	7	3	3	1	48	
	東京都	21	7	3	15	26	22	19	15	17	18	163	8位
	神奈川県	6	7	3	9	11	7	10	2	13	7	75	10位
関東計	42	23	7	34	71	47	43	20	49	32	368	-	
北陸・新潟	新潟県	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	5	
	富山県	0	1	0	2	1	1	0	1	0	1	7	
	石川県	1	0	1	1	1	2	0	0	0	7	13	
	福井県	0	2	1	0	0	0	0	1	1	2	7	
北陸・新潟計	1	3	2	4	4	3	0	2	2	11	32	-	
甲信・東海	山梨県	0	0	0	0	2	3	0	0	2	1	8	
	長野県	2	0	0	0	3	0	0	0	0	3	8	
	岐阜県	1	1	3	2	1	6	0	0	1	0	15	
	静岡県	2	0	0	2	4	3	3	3	3	2	22	
	愛知県	11	1	2	18	25	13	5	9	5	12	101	9位
甲信・東海計	16	2	5	22	35	25	8	12	11	18	154	-	
近畿	三重県	1	0	1	1	3	4	1	1	3	2	17	
	滋賀県	3	0	0	3	3	3	1	6	0	2	21	
	京都府	6	4	5	10	11	7	8	2	5	9	67	11位
	大阪府	42	23	12	37	51	27	20	19	28	28	287	3位
	兵庫県	29	11	17	30	30	26	11	22	24	21	221	5位
	奈良県	6	0	3	8	7	5	0	6	3	2	40	
	和歌山県	2	1	4	5	1	0	0	0	1	2	16	
近畿計	89	39	42	94	106	72	41	56	64	66	669	-	
中国	鳥取県	1	0	6	4	1	1	1	0	2	0	16	
	島根県	2	0	2	1	4	1	0	0	0	0	10	
	岡山県	26	9	42	20	37	24	6	23	14	29	230	4位
	広島県	17	4	25	17	20	22	11	10	16	26	168	7位
	山口県	0	3	4	1	4	3	0	1	3	3	22	
中国計	46	16	79	43	66	51	18	34	35	58	446	-	
四国	徳島県	39	25	26	24	14	33	5	13	11	15	205	6位
	香川県	32	31	67	52	29	54	22	43	22	31	383	2位
	愛媛県	26	31	64	48	28	43	61	57	58	62	478	1位
四国計	97	87	157	124	71	130	88	113	91	108	1066	-	
九州・沖縄	福岡県	1	0	2	2	5	3	2	3	4	11	33	
	佐賀県	1	1	0	0	1	3	0	0	5	1	12	
	長崎県	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	4	
	熊本県	1	0	0	0	3	0	0	3	4	3	14	
	大分県	2	0	1	0	2	0	0	2	9	2	18	
	宮崎県	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	8	
	鹿児島県	3	0	1	0	0	1	1	0	0	1	7	
沖縄県	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
九州・沖縄計	9	1	4	4	13	7	3	8	26	22	97	-	
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
高知県	97	229	104	72	26	61	197	153	116	76	1131	-	

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [24 年、23 年]



24年の県内旅行日数の平均は、前年同様の2.0日となった。発地ブロック別にみると、北陸・新潟と近畿、中国、四国で増加、甲信・東海は横ばい、北海道と東北、関東、九州・沖縄で減少となっている。

入込上位11位までの都道府県別に県内旅行日数の割合をみると(参考6)、関東(東京・神奈川)は「1泊2日」と「2泊3日」で6割以上を占め、愛知と近畿(京都・大阪・兵庫、)中国(岡山・広島)は「1泊2日」が多くなり、四国は「日帰り」が大半を占めている。

都道府県別の旅行日数割合を前年と比較してみると(参考8)、京都府の「2泊3日」、兵庫県と徳島県の「1泊2日」は大きく増加し、逆に、愛知県の「2泊3日」、京都府の「1泊2日」、広島県と徳島県の「日帰り」などが大きく減少している。

(参考6) 発地別県内旅行日数割合(%) [24年 上位11位まで]

	東京都	神奈川県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	徳島県	香川県	愛媛県
日帰り	5.5	4.0	15.9	16.4	11.1	14.5	39.6	26.2	62.4	67.1	71.6
1泊2日	34.4	33.3	50.5	44.8	54.2	62.4	49.6	55.9	32.7	27.7	25.5
2泊3日	33.7	33.3	9.9	23.9	22.9	14.9	8.7	12.5	3.4	3.1	2.5
3泊4日	12.3	17.4	9.9	1.5	6.6	4.1	1.7	3.0	0.5	1.0	0.2
4泊5日	6.7	8.0	5.9	4.5	1.7	1.8	0.0	1.2	0.5	0.3	0.2
5泊6日以上	7.4	4.0	7.9	8.9	3.5	2.3	0.4	1.2	0.5	0.8	0.0

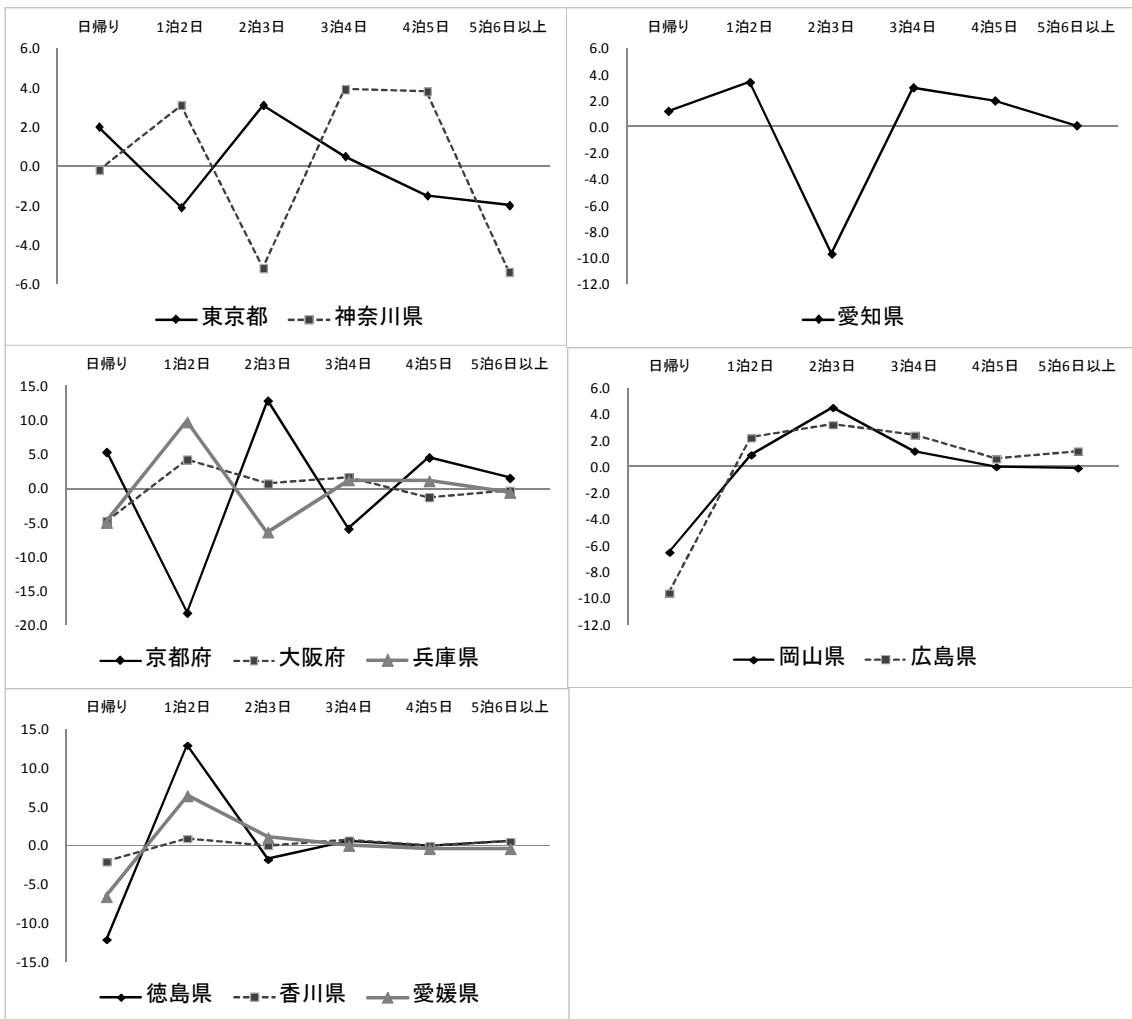
(参考 7) 発地別県内旅行日数割合(%) [23 年 上位 11 位まで]

	東京都	神奈川県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	徳島県	香川県	愛媛県
日帰り	3.5	4.2	14.7	11.1	15.9	19.5	46.1	35.8	74.5	69.2	78.2
1泊2日	36.5	30.2	47.1	63.0	50.0	52.7	48.7	53.7	19.8	26.8	19.1
2泊3日	30.6	38.5	19.6	11.1	22.2	21.3	4.2	9.3	5.2	3.1	1.5
3泊4日	11.8	13.5	6.9	7.4	5.0	2.9	0.5	0.6	0.0	0.3	0.2
4泊5日	8.2	4.2	3.9	0.0	3.0	0.7	0.0	0.6	0.5	0.3	0.6
5泊6日以上	9.4	9.4	7.8	7.4	3.9	2.9	0.5	0.0	0.0	0.3	0.4

(参考 8) 発地別県内旅行日数割合(%) [24 年と 23 年の差]

	東京都	神奈川県	愛知県	京都府	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	徳島県	香川県	愛媛県
日帰り	2.0	-0.2	1.2	5.3	-4.8	-5.0	-6.5	-9.6	-12.1	-2.1	-6.6
1泊2日	-2.1	3.1	3.4	-18.2	4.2	9.7	0.9	2.2	12.9	0.9	6.4
2泊3日	3.1	-5.2	-9.7	12.8	0.7	-6.4	4.5	3.2	-1.8	0.0	1.0
3泊4日	0.5	3.9	3.0	-5.9	1.6	1.2	1.2	2.4	0.5	0.7	0.0
4泊5日	-1.5	3.8	2.0	4.5	-1.3	1.1	0.0	0.6	0.0	0.0	-0.4
5泊6日以上	-2.0	-5.4	0.1	1.5	-0.4	-0.6	-0.1	1.2	0.5	0.5	-0.4

(参考 9) 発地別県内旅行日数割合(%) [24 年と 23 年の差]



5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔24年、過去4年間〕

年代 \ 年	20年	21年	22年	23年	24年
10代	1.9	2.0	2.0	2.1	2.7
20代	2.1	2.1	1.9	2.1	2.0
30代	2.2	2.3	2.0	2.0	2.0
40代	2.4	2.3	2.0	2.1	2.1
50代	2.0	2.1	1.8	1.9	1.9
60代以上	2.1	2.1	1.9	2.1	2.0
全体	2.2	2.2	1.9	2.0	2.0

年代別の県内旅行日数は、10代が過去最高となっている。

前年との比較では、10代は0.6日増加し、20代と60代以上は0.1日の減少、その他の年代は、横ばいとなっている。

6 旅行形態別旅行目的

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [24 年、過去 2 年間]

		自然見物 ・町歩き	名所旧跡 観光施設	休養・慰安	食べ物	神仏 霊場巡り	その他
1人	22年 (n=206)	15.5	25.3	2.9	1.0	7.3	48.0
	23年 (n=298)	24.8	14.1	1.7	2.7	12.8	43.9
	24年 (n=262)	14.9	21.4	3.4	1.9	4.6	53.8
家族	22年 (n=2206)	16.8	49.8	5.5	5.5	3.4	19.0
	23年 (n=2101)	28.3	34.6	4.4	7.0	3.4	22.3
	24年 (n=1842)	17.1	34.5	7.1	10.1	3.3	27.9
友人 知人	22年 (n=503)	17.1	38.3	3.2	8.1	0.8	32.5
	23年 (n=474)	27.8	26.4	4.0	10.8	1.3	29.7
	24年 (n=588)	18.9	22.6	9.4	11.2	1.5	36.4
団体	22年 (n=33)	3.0	60.6	15.2	0.0	0.0	21.2
	23年 (n=24)	8.3	50.0	4.2	4.2	8.3	25.0
	24年 (n=79)	8.9	25.3	15.2	5.1	0.0	45.5
その他	22年 (n=19)	15.8	42.0	0.0	5.3	5.3	31.6
	23年 (n=32)	9.4	21.9	0.0	0.0	9.4	59.3
	24年 (n=98)	18.4	19.4	6.1	17.4	1.0	37.7
全体	22年 (n=2967)	16.6	46.2	5.0	5.6	3.2	23.4
	23年 (n=2929)	27.5	31.1	4.0	7.1	4.1	26.2
	24年 (n=2869)	17.1	30.1	7.4	9.7	2.9	32.8

(参考 10) 旅行形態別旅行目的割合(%) [24 年、過去 2 年間 全項目]

		自然見物 ・町歩き	休養・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	帰省・仕事	その他
1人	22年	15.5	2.9	0.0	2.4	1.5	1.0	7.3	0.5	25.3	18.4	16.0	9.2
	23年	24.8	1.7	3.7	1.0	0.7	2.7	12.8	0.3	14.1	15.4	20.8	2.0
	24年	14.9	3.4	5.3	2.3	1.1	1.9	4.6	0.0	21.4	17.6	21.0	6.5
家族	22年	16.8	5.5	0.3	1.4	0.3	5.5	3.4	1.0	49.8	4.9	9.6	1.5
	23年	28.3	4.4	2.7	2.2	0.4	7.0	3.4	1.1	34.6	5.9	8.5	1.5
	24年	17.1	7.1	4.2	2.3	0.2	10.1	3.3	2.2	34.5	6.3	9.9	2.8
友人 知人	22年	17.1	3.2	0.4	3.6	0.6	8.1	0.8	0.8	38.3	19.5	5.4	2.2
	23年	27.8	4.0	4.6	3.0	0.4	10.8	1.3	0.6	26.4	14.4	6.3	0.4
	24年	18.9	9.4	5.9	3.1	1.4	11.2	1.5	1.0	22.6	15.1	5.3	4.6
団体	22年	3.0	15.2	0.0	3.0	6.1	0.0	0.0	0.0	60.6	0.0	9.1	3.0
	23年	8.3	4.2	0.0	4.2	4.2	4.2	8.3	0.0	50.0	0.0	16.6	0.0
	24年	8.9	15.2	1.3	1.3	2.5	5.1	0.0	1.2	25.3	12.7	20.2	6.3
その他	22年	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	42.0	15.8	15.8	0.0
	23年	9.4	0.0	6.2	0.0	6.2	0.0	9.4	0.0	21.9	3.1	31.3	12.5
	24年	18.4	6.1	11.2	3.1	1.0	17.4	1.0	0.0	19.4	16.3	1.0	5.1
全体	22年	16.6	5.0	0.3	1.8	0.5	5.6	3.2	0.9	46.2	8.4	9.4	2.1
	23年	27.5	4.0	3.1	2.2	0.5	7.1	4.1	1.0	31.1	8.2	9.7	1.5
	24年	17.1	7.4	4.8	2.4	0.6	9.7	2.9	1.6	30.1	9.7	10.0	3.7

旅行目的の全体割合をみると、「名所旧跡」が前年から 1.0 ポイント減少したものの 30.1%と最も多く、次いで「自然見物」が 10.4 ポイント減で 17.1%、「帰省・仕事」が 0.3 ポイント増で 10.0%、「食べ物」が 2.6 ポイント増で 9.7%、「なんとなく（ドライブを含む）」が 1.5 ポイント増で 9.7%（参考 10）などとなっている。

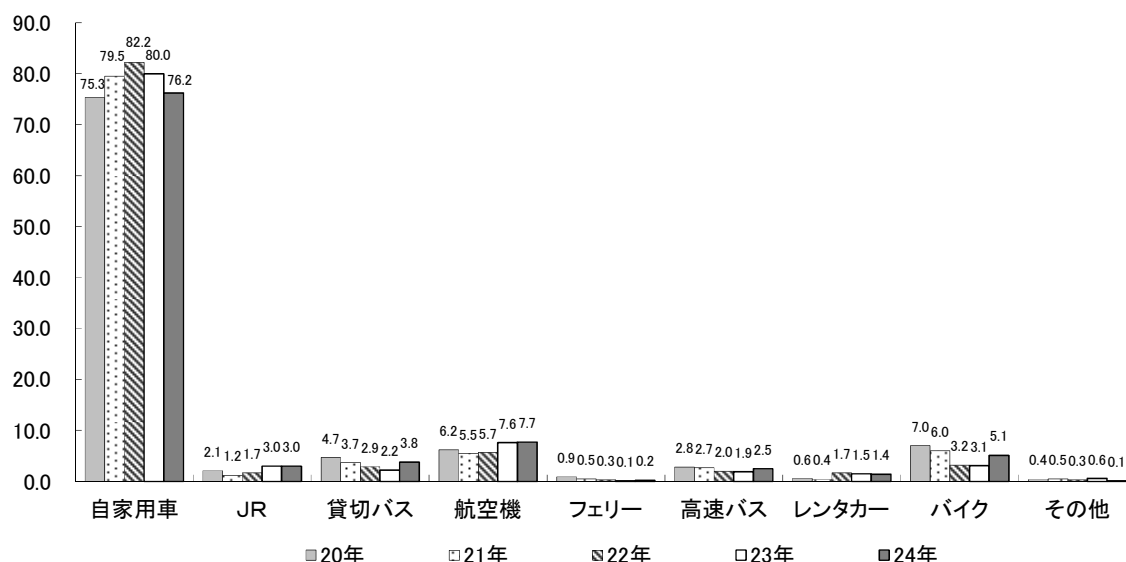
旅行形態別に旅行目的の前年比をみると、“一人旅”の「自然見物」が 9.9 ポイント減、「霊場巡り」が 8.2 ポイント減、「名所旧跡」が 7.3 ポイント増などとなっている。“家族旅行”では、「自然見物」が 11.2 ポイント減となり、“友人・知人との旅行”でも、「自然見物」が 8.9 ポイント減となっている。

7 入込利用交通機関

(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [24 年、過去 4 年間]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
20年 (n=2352)	1771 75.3	50 2.1	110 4.7	146 6.2	21 0.9	65 2.8	14 0.6	164 7.0	11 0.4
21年 (n=2362)	1877 79.5	29 1.2	88 3.7	129 5.5	12 0.5	63 2.7	9 0.4	143 6.0	12 0.5
22年 (n=2967)	2439 82.2	51 1.7	87 2.9	168 5.7	8 0.3	60 2.0	49 1.7	95 3.2	10 0.3
23年 (n=2929)	2344 80.0	86 3.0	65 2.2	221 7.6	4 0.1	56 1.9	45 1.5	91 3.1	17 0.6
24年 (n=2869)	2186 76.2	86 3.0	108 3.8	222 7.7	5 0.2	70 2.5	41 1.4	147 5.1	4 0.1

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [24 年、過去 4 年間]



主要観光地における入込利用交通機関は、今回の調査でも「自家用車」が76.2%と大半を占めたが、前年の80.0%からは3.8ポイント減少している。一方で、前年との比較で増加したのは、「バイク」が前年比2.0ポイント増の5.1%、「貸切バス」が1.6ポイント増の3.8%、「高速バス」が0.6ポイント増の2.5%、「航空機」が0.1ポイント増の7.7%となっている。

8 旅行形態

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [24 年、23 年]

		1人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	23年 (n=44)	11.4	72.7	15.9	0.0	0.0
	24年 (n=38)	21.0	55.3	18.4	0.0	5.3
20 代	23年 (n=452)	13.5	38.3	47.4	0.4	0.4
	24年 (n=476)	8.8	34.4	44.8	3.4	8.6
30 代	23年 (n=794)	8.8	72.4	16.6	1.3	0.9
	24年 (n=722)	8.2	64.8	20.5	2.8	3.7
40 代	23年 (n=570)	9.5	82.6	6.7	0.5	0.7
	24年 (n=601)	12.3	70.9	11.5	3.3	2.0
50 代	23年 (n=492)	9.4	80.9	7.7	1.0	1.0
	24年 (n=526)	8.0	73.8	13.9	3.0	1.3
60代以上	23年 (n=577)	10.8	78.3	7.8	0.7	2.4
	24年 (n=506)	7.3	74.1	15.4	1.4	1.8
全 体	23年 (n=2929)	10.2	71.7	16.2	0.8	1.1
	24年 (n=2869)	9.1	64.2	20.5	2.8	3.4

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [24 年、23 年]

		1人	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10 代	23年 (n=44)	11.4	36.4	34.1	15.9	2.2
	24年 (n=38)	21.0	47.4	26.3	5.3	0.0
20 代	23年 (n=452)	13.5	72.3	11.1	2.9	0.2
	24年 (n=476)	8.8	72.6	14.5	3.6	0.5
30 代	23年 (n=794)	8.8	60.4	24.1	5.9	0.8
	24年 (n=722)	8.2	60.4	24.6	6.4	0.4
40 代	23年 (n=570)	9.5	55.3	26.8	7.0	1.4
	24年 (n=601)	12.3	54.1	27.8	5.0	0.8
50 代	23年 (n=492)	9.4	71.3	14.2	3.7	1.4
	24年 (n=526)	8.0	66.5	18.3	5.7	1.5
60代以上	23年 (n=577)	10.8	65.8	14.4	6.8	2.2
	24年 (n=506)	7.3	66.0	16.4	8.5	1.8
全 体	23年 (n=2929)	10.2	63.8	19.2	5.6	1.2
	24年 (n=2869)	9.1	63.1	21.0	5.9	0.9

(参考 11) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [24 年]

	1人	家族				友人知人				団体				その他				
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	
10代	8	10	9	2		7								1	1			
20代	42	121	35	8		175	32	5	1	10	2	3	1	40			1	
30代	59	277	154	37		125	14	9		8	10		2	26			1	
40代	74	247	158	19	2	55	7	6	1	15	2	2	1	8			3	1
50代	42	298	70	18	2	42	22	7	2	9	2	3	2	1	2	2	2	2
60代以上	37	292	56	25	2	38	25	11	4	1	1	4	1	3	1	3	3	2

(参考 12) 年代別旅行形態・同行者数割合(%) [24 年と 23 年の差]

	1人	家族				友人知人				団体				その他				
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	
10代	9.7	-1.0	-10.4	-6.1		9.3		-4.5	-2.3					2.6	2.6			
20代	-4.7	-3.1	-0.2	-0.5		-6.4	3.2	0.6	-0.0	1.9	0.4	0.4	0.2	8.0			0.2	
30代	-0.6	-6.3	-1.5	0.2		2.5	0.7	0.7		0.7	1.4	-0.3	-0.4	3.1			-0.3	0.0
40代	2.8	-9.3	0.3	-3.0	0.2	4.4	0.3	0.3	-0.2	2.5	0.3	0.3	-0.4	1.2			0.3	-0.2
50代	-1.4	-9.4	1.5	0.6	0.2	3.1	2.1	0.7	0.2	1.7	0.4	0.6	-0.6	-0.2	-0.0	0.2	0.4	0.4
60代以上	-3.4	-3.8	-0.7	0.1	0.2	3.4	3.0	0.8	0.4	0.2	0.2	0.6	-0.3	0.4	-0.5	0.2	0.2	-0.8

※ 各年代ごとに合計 100%になるよう割合を算出し、24 年の割合から 23 年の割合を差し引いたもの。

旅行形態割合は、全体では「1人」が前年比 1.1 ポイント減の 9.1%、「家族」が 7.4 ポイント減の 64.3%、「友人知人」が 4.5 ポイント増の 20.7%、「団体」が 2.0 ポイント増の 2.8%となっている。「家族」はすべての年代で前年から減少している。

同行者数割合は、全体では「2~3人」が前年比 0.7 ポイント減の 63.1%、「4~5人」が 1.8 ポイント増の 21.0%、「6~10人」が 0.3 ポイント増の 5.9%、「11人以上」が 0.3 ポイント減の 0.9%となっている。

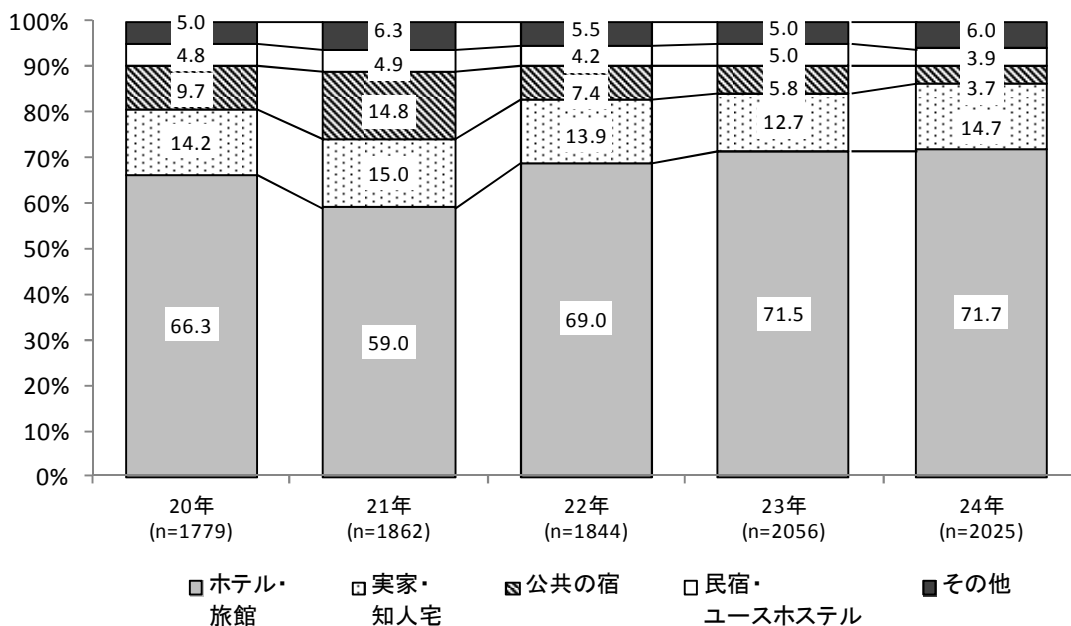
年代別に旅行形態と同行者数の関係をみると(参考 11)、10代では「2~3人」、または「4~5人」の家族旅行で大半を占め、20代で多い組み合わせは「2~3人」の友人との旅行、または「2~3人」の家族旅行となっている。30代は「2~3人」の家族旅行が多く、次に「4~5人」の家族旅行、「2~3人」の友人との旅行と続いている。40代は「2~3人」、または「4~5人」の家族旅行が大半、50代と60代以上は「2~3人」の家族旅行が大半を占めている。

前年との比較では、10代の「4~5人」の家族旅行が 10.4 ポイント減少しており、次いで 50代の「2~3人」の家族旅行が 9.4 ポイント減、40代の「2~3人」の家族旅行が 9.3 ポイント減となっている。一方で、10代の「1人」が 9.7 ポイント増加しており、次いで 10代の「2~3人」の友人との旅行が 9.3 ポイント増などとなっている。

9 利用宿泊施設

9.1 年間

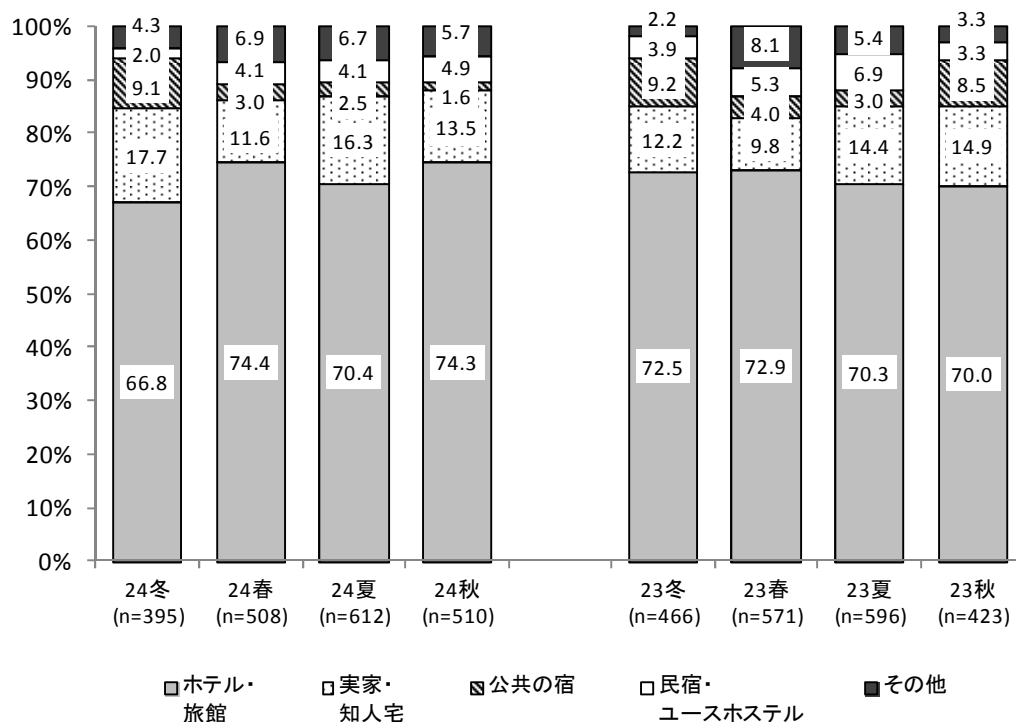
(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [24 年、過去 4 年間]



県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が過去最高の 71.7%で最も多くなった。次いで「実家・知人宅」が 14.7%、「民宿・ユースホステル」が 3.9%、「公共の宿」が 3.7%、「その他」が 6.0%となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [24 年、23 年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比較すると、冬期は「実家・知人宅」の割合が5.5ポイント増加している。また、「ホテル・旅館」が5.7ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.9ポイント減少している。

春期は「実家・知人宅」が1.8ポイント、「ホテル・旅館」が1.5ポイント増加し、それ以外は減少している。

夏期は「実家・知人宅」が1.9ポイント、「その他」が1.3ポイント増加し、「民宿・ユースホステル」が2.8ポイント減少している。

秋期は「ホテル・旅館」が4.3ポイント、「その他」が2.4ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.6ポイント増加している。また、「公共の宿」が6.9ポイント、「実家・知人宅」が1.4ポイント減少している。

9.3 年代別

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [24 年、23 年]

		ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
10 代	23年 (n=29)	58.6	27.6	0.0	10.3	3.5
	24年 (n=28)	42.9	42.9	0.0	7.1	7.1
20 代	23年 (n=323)	66.9	16.4	3.1	6.5	7.1
	24年 (n=335)	69.3	15.2	2.7	3.6	9.2
30 代	23年 (n=547)	71.9	13.2	5.1	4.7	5.1
	24年 (n=490)	73.7	13.7	2.0	3.9	6.7
40 代	23年 (n=418)	73.9	11.7	4.8	4.1	5.5
	24年 (n=449)	71.3	17.4	4.0	3.3	4.0
50 代	23年 (n=335)	73.1	10.1	8.1	5.7	3.0
	24年 (n=374)	73.5	13.4	4.6	3.7	4.8
60代以上	23年 (n=404)	71.5	11.4	8.7	4.2	4.2
	24年 (n=349)	72.2	11.5	5.7	4.9	5.7

年代別利用宿泊施設割合を前年と比較すると、「ホテル・旅館」の割合は、“10代”と“40代”をのぞく年代で増加し、“10代”は15.7ポイント、“40代”は2.6ポイント減少している。「実家・知人宅」は、1.2ポイント減の“20代”をのぞくすべての年代で増加し、「公共の宿」は利用の無かった“10代”をのぞくすべての年代で減少している。

「民宿・ユースホステル」は、0.7ポイント増加の“60代以上”をのぞく年代で減少している。

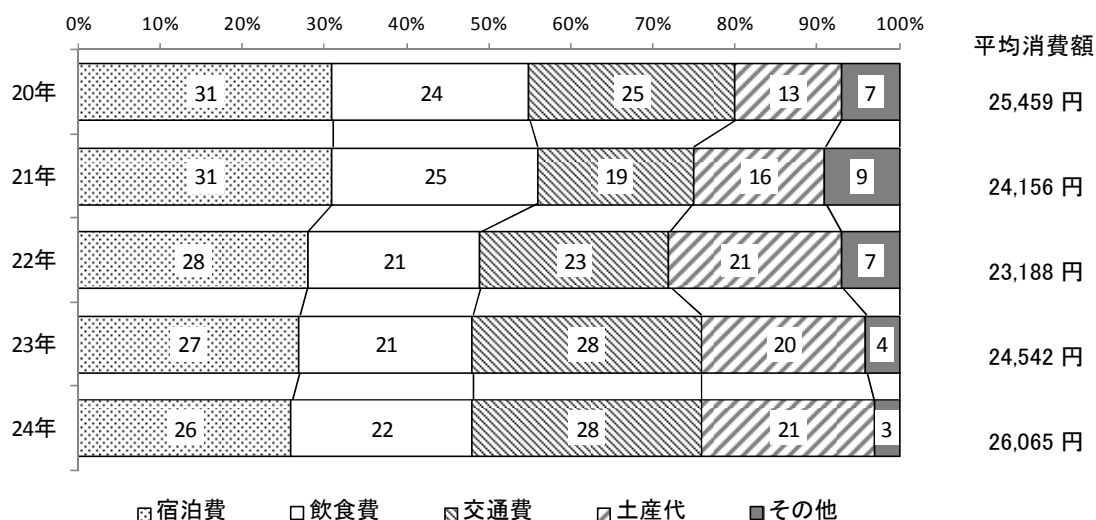
サンプル数の少ない“10代”をのぞく年代では、前年比で10ポイント以上の増減はなく、前年と同様の傾向となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [24 年、過去 4 年間]



(参考 13) 県内平均消費額費目別内訳(円) [24 年、過去 2 年間]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他
22年	6,490	4,948	5,345	4,909	1,496
23年	6,540	5,064	6,990	4,911	1,037
24年	6,679	5,858	7,315	5,458	755

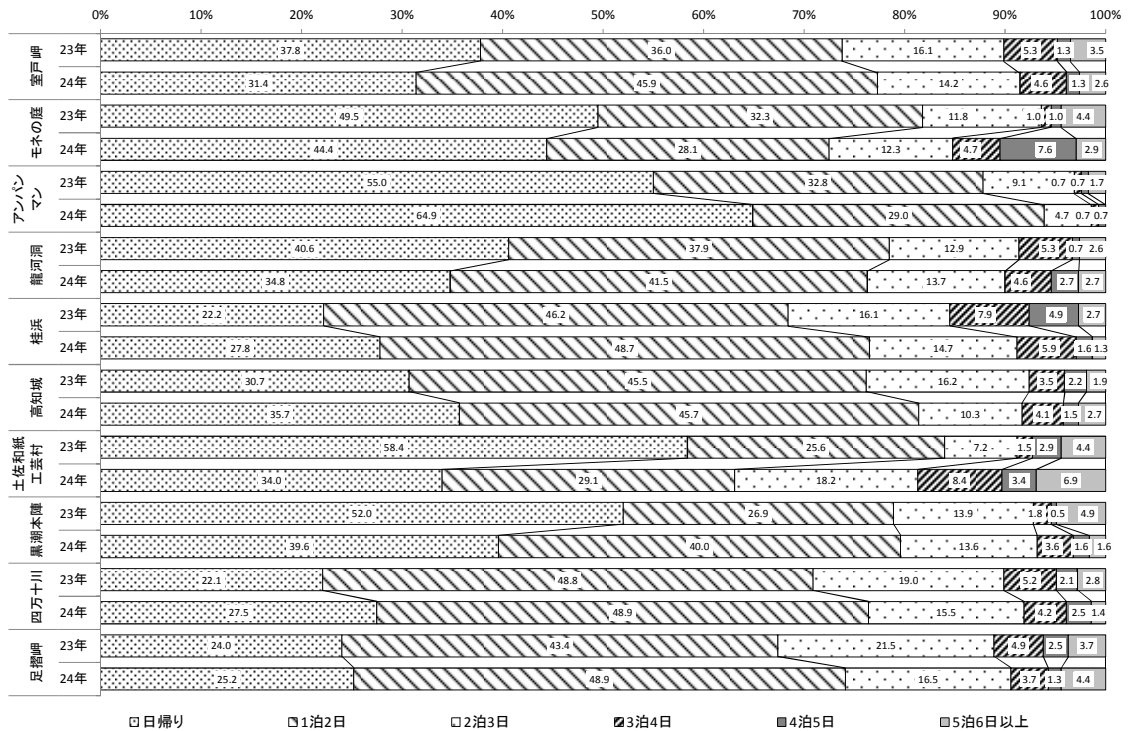
県内消費額の年間平均金額は、前年比 1,523 円の増加で 26,065 円と、平成 20 年度以降の 5 年間で最高となった。費目別の割合では、「宿泊費」が 5 年間で最低、「土産代」と「交通費」が最高となっている。しかし、前年と比較した場合、いずれの費目も 1 ポイント以内の増減であり、大きな変化はなかった。

費目別の平均消費額をみると(参考 13)、「宿泊費」が約 140 円増、「飲食費」が約 790 円増、「交通費」が約 330 円増、「土産代」が約 550 円増、「その他」が約 280 円減という結果となっている。

(参考 14) 調査地別県内平均消費額(円) [24 年、23 年]

調査地	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
23年	25,422	20,569	18,010	22,919	29,064	26,924	16,690	21,387	30,122	28,517
24年	28,127	24,571	17,381	27,321	28,903	26,150	29,094	24,671	25,213	28,674
前年との差	2,705	4,002	▲ 629	4,402	▲ 161	▲ 774	12,404	3,284	▲ 4,909	157

(参考 15) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [24 年、23 年]



調査地別の年間平均消費額は (参考 14)、「土佐和紙工芸村」が 29,094 円で最も高く、「アンパンマンミュージアム」が 17,381 円で最も低くなった。

前年と比較すると、「土佐和紙工芸村」は日帰り客の割合が減少し、宿泊客が増加している (参考 15)。それが、平均消費額を引き上げた要因になっていると思われる。

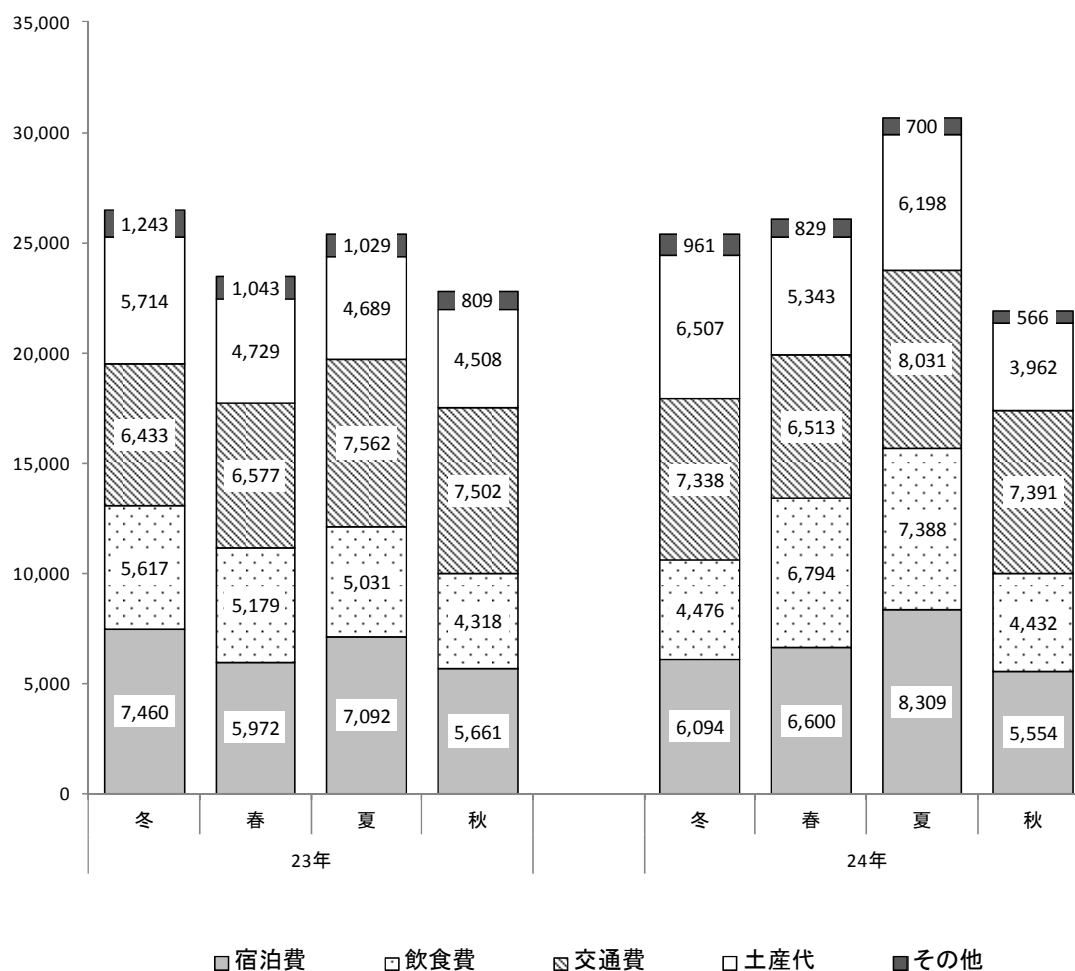
一方で日帰り客の割合が増加した「アンパンマンミュージアム」や「桂浜」、「高知城」、「四万十川」では平均消費額が昨年に比べ低くなっている。

10.1.2 四季別

(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [24 年、23 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	23年	28	21	24	22	5	26,466	▲ 1,090円
	24年	24	18	29	25	4	25,376	
春	23年	25	22	28	20	5	23,500	2,579円
	24年	25	26	25	21	3	26,079	
夏	23年	28	20	30	19	4	25,403	5,223円
	24年	27	24	26	20	3	30,626	
秋	23年	25	19	33	20	3	22,797	▲ 892円
	24年	25	20	34	18	3	21,905	

(図 10-3) 四季別県内消費額費目別平均消費額(円) [24 年、23 年]



四季別の平均消費額を前年と比較すると、春期は2,579円、夏期は5,223円増加し、冬期は1,090円、秋期は892円減少している。

それぞれの費目で割合が最も多くなった時期は、「宿泊費」が夏期、「飲食費」が春期、「交通費」が秋期、「土産代」と「その他」が冬期となっており、前年と同じ傾向となっている。また、それぞれの費目の消費額が最も高くなった時期は、「宿泊費」「飲食費」「交通費」は夏期、「土産代」「その他」は冬期という結果となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [24 年、23 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	23年	17	22	32	21	8	18,763円	4,015円
	24年	26	24	30	17	3	22,778円	
20 代	23年	23	23	31	18	5	23,841円	▲ 1,426円
	24年	23	23	32	18	4	22,415円	
30 代	23年	26	21	28	20	5	23,281円	1,861円
	24年	25	24	28	20	3	25,142円	
40 代	23年	29	21	26	19	5	25,378円	3,341円
	24年	27	21	29	20	3	28,719円	
50 代	23年	26	21	28	21	4	24,153円	1,516円
	24年	26	22	26	24	2	25,669円	
60代以上	23年	31	20	24	21	4	26,890円	1,674円
	24年	27	23	26	22	2	28,564円	

年代別の平均消費額は、20代が1,426円減となった以外は、すべての年代で増加している。

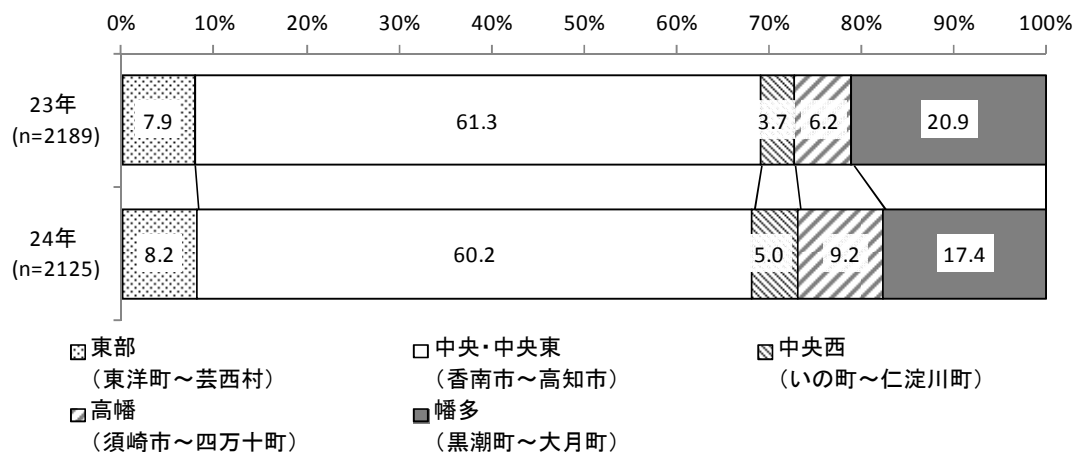
費目別の割合を前年と比較すると、「宿泊費」は20代と50代で横ばい、10代が増加、30代と40代、60代以上で減少している。「飲食費」は20代と40代で横ばい、その他のすべての年代で増加。「交通費」は30代が横ばい、20代と40代、60代以上で増加、10代と50代で減少している。「土産代」は20代と30代で横ばい、40代以上のすべての年代で増加、10代で減少している。「その他」は全ての年代で減少という結果となっている。

(参考)動態調査による県外観光客一人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	H24	H23	H22	H21	(H21～23平均)
県外観光客総数(人)	3,839,714	3,882,268	4,359,415	3,155,791	3,799,158
県外観光客一人当たり消費額(円)	26,064	24,542	23,188	24,156	23,962
<内訳> 宿泊費	6,679	6,540	6,490	7,690	6,907
飲食費	5,858	5,064	4,948	6,020	5,344
交通費	7,315	6,990	5,345	4,485	5,607
土産	5,458	4,911	4,909	3,806	4,542
その他	754	1,037	1,496	2,155	1,563
県外観光客の総消費額(百万円)	100,078	95,278	101,086	76,231	90,865
生産誘発効果(百万円)	152,004	144,705	153,421	123,004	140,377
生産誘発倍率(倍)	1.52	1.52	1.52	1.61	1.55

11 宿泊地域

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [24 年、23 年]



県内での宿泊地域の割合は、「中央・中央東」が前年比 1.1 ポイント減となったが 60.2% で最も多くなっている。次いで「幡多」が同 3.5 ポイント減の 17.4%、「高幡」が同 3.0 ポイント増の 9.2%、「東部」が同 0.3 ポイント増の 8.2%、「中央西」が同 1.3 ポイント増の 9.2%となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [24 年]

	東部	中央・中央東	中央西	高幡	幡多
室戸岬	27.7	60.4	1.7	3.4	6.8
モネの庭	28.0	66.4	0.9	2.8	1.9
アンパンマン	5.6	92.6	0.9	0.0	0.9
龍河洞	8.4	76.6	5.0	5.8	4.2
桂浜	6.6	75.6	3.6	5.0	9.2
高知城	1.6	82.8	5.5	3.8	6.3
土佐和紙工芸村	1.9	57.3	27.5	6.1	7.2
黒潮本陣	2.3	45.6	3.5	31.8	16.8
四万十川	2.1	36.1	0.8	9.1	51.9
足摺岬	5.3	30.5	3.8	18.9	41.5
全体	8.2	60.2	5.0	9.2	17.4

※背景色＋太字は宿泊地域ごとの上位2位まで。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [24 年]

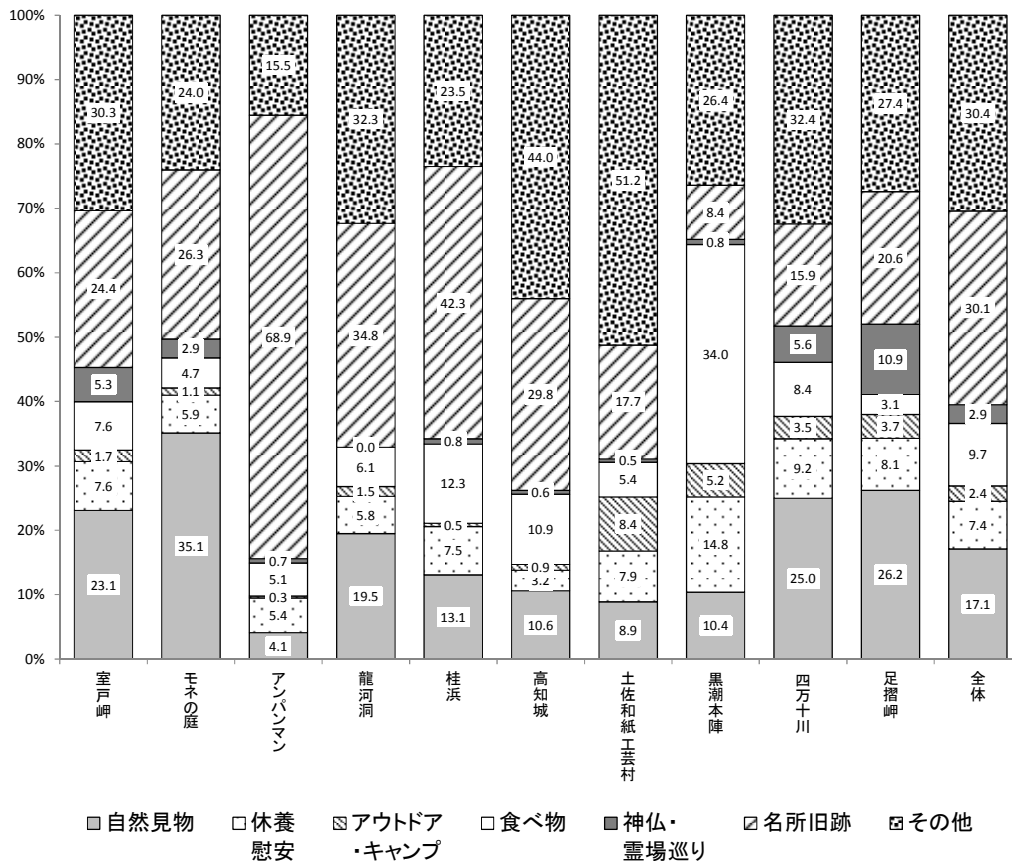
	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ ユースホステル	その他
室戸岬	76.9	13.4	1.8	2.8	5.1
モネの庭	59.6	33.3	1.8	3.5	1.8
アンパンマン	84.1	12.1	0.0	1.9	1.9
龍河洞	67.1	18.9	4.8	4.4	4.8
桂浜	79.5	10.8	3.1	1.7	4.9
高知城	77.6	12.1	4.3	1.7	4.3
土佐和紙工芸村	44.4	24.4	12.5	4.4	14.3
黒潮本陣	65.1	18.3	4.0	6.3	6.3
四万十川	77.9	10.8	0.9	4.3	6.1
足摺岬	73.3	7.3	3.3	7.3	8.8
全体	71.7	14.7	3.7	3.9	6.0

※背景色＋太字は宿泊施設ごとの上位2位まで。

12 調査地別分析

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [24 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [24 年]

	自然見物	休養慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡	その他
室戸岬	23.1	7.6	1.7	7.6	5.3	24.4	30.3
モネの庭	35.1	5.9	1.1	4.7	2.9	26.3	24.0
アンパンマン	4.1	5.4	0.3	5.1	0.7	68.9	15.5
龍河洞	19.5	5.8	1.5	6.1	0.0	34.8	32.3
桂浜	13.1	7.5	0.5	12.3	0.8	42.3	23.5
高知城	10.6	3.2	0.9	10.9	0.6	29.8	44.0
土佐和紙工芸村	8.9	7.9	8.4	5.4	0.5	17.7	51.2
黒潮本陣	10.4	14.8	5.2	34.0	0.8	8.4	26.4
四万十川	25.0	9.2	3.5	8.4	5.6	15.9	32.4
足摺岬	26.2	8.1	3.7	3.1	10.9	20.6	27.4
全体	17.1	7.4	2.4	9.7	2.9	30.1	30.4

※背景色+太字は旅行目的ごとの上位2位まで。

「モネの庭」は“自然見物”が最も多く、“その他（ドライブを含む）”や“名所旧跡”も多くなっている。前年同様、女性の旅行者を中心に、モネの庭を主な目的として訪問するケースが多かった。

「桂浜」は“名所旧跡”と“その他”が多くなっている。調査の際、「高知に来たら、とりあえず桂浜に行きます」といった声が多く聞かれたことから、前年同様、「桂浜」を旅行の起点として他のエリアへ向かう旅行者が多いことがわかる。また、「黒潮本陣」に次いで2番目に“食べ物”の割合が多くなっている。

「足摺岬」は“自然見物”と“その他”が多くなっている。また、金剛福寺が近くにあるため、八十八ヶ所の巡礼に合わせて観光する旅行者が多数見られ、他の調査地と比べ、“神仏・霊場巡り”の割合が多くなっている。

「高知城」は“その他”と“名所旧跡”で半数以上を占めており、前年同様、日曜市や桂浜周辺などの主要観光地と合わせて訪問する旅行者が多く見られた。

「アンパンマンミュージアム」は“名所旧跡”が68.9%を占めており、のいち動物公園や龍河洞など、周辺の観光施設と合わせて観光するケースも多く見られた。

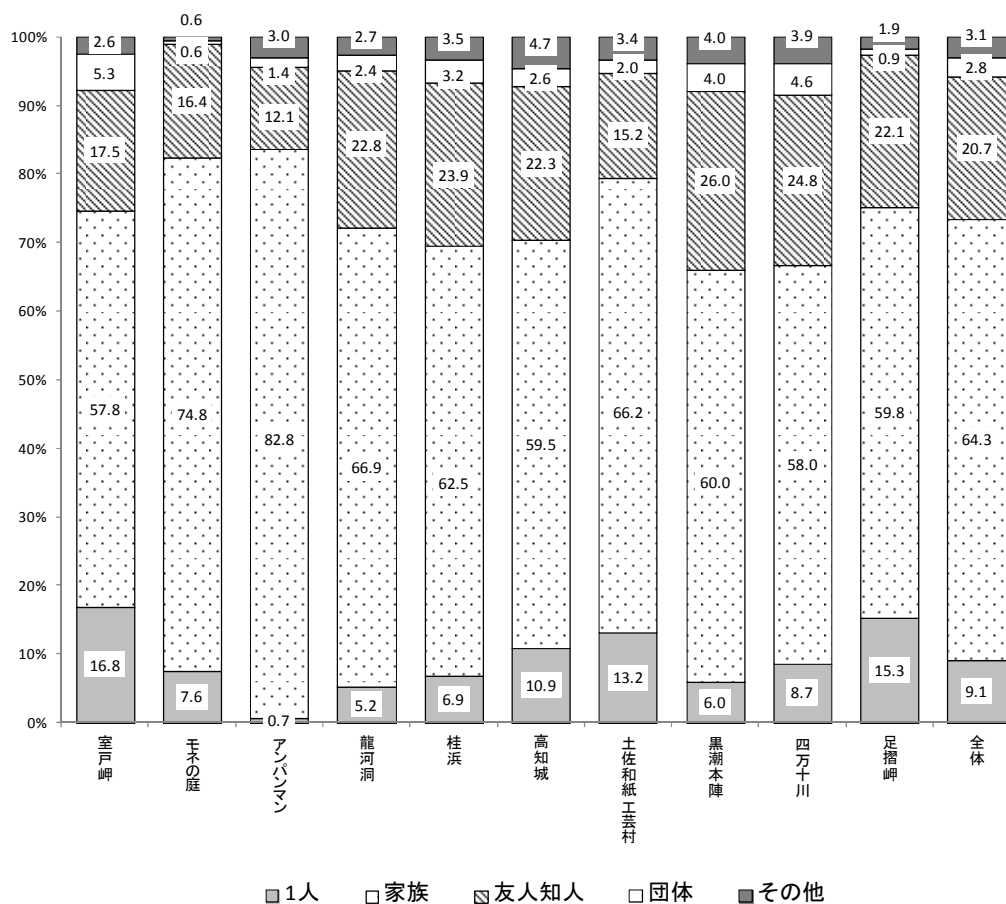
「土佐和紙工芸村」は“その他”が半数以上を占め、“名所旧跡”も多くなっている。また、“アウトドア・キャンプ”の割合が他の調査地点に比べて、最も多くなっている。

「黒潮本陣」は“食べ物”と“休養慰安”の割合が調査地別で最も多くなっている。久礼大正町市場での海産物などが目的の旅行者が多く、黒潮本陣での宿泊や温泉を主な目的に訪問した旅行者もいた。

「四万十川」は“自然見物”と“その他”が多く、「龍河洞」と「室戸岬」は“名所旧跡”と“その他”が多くなっている。

12.2 旅行形態割合

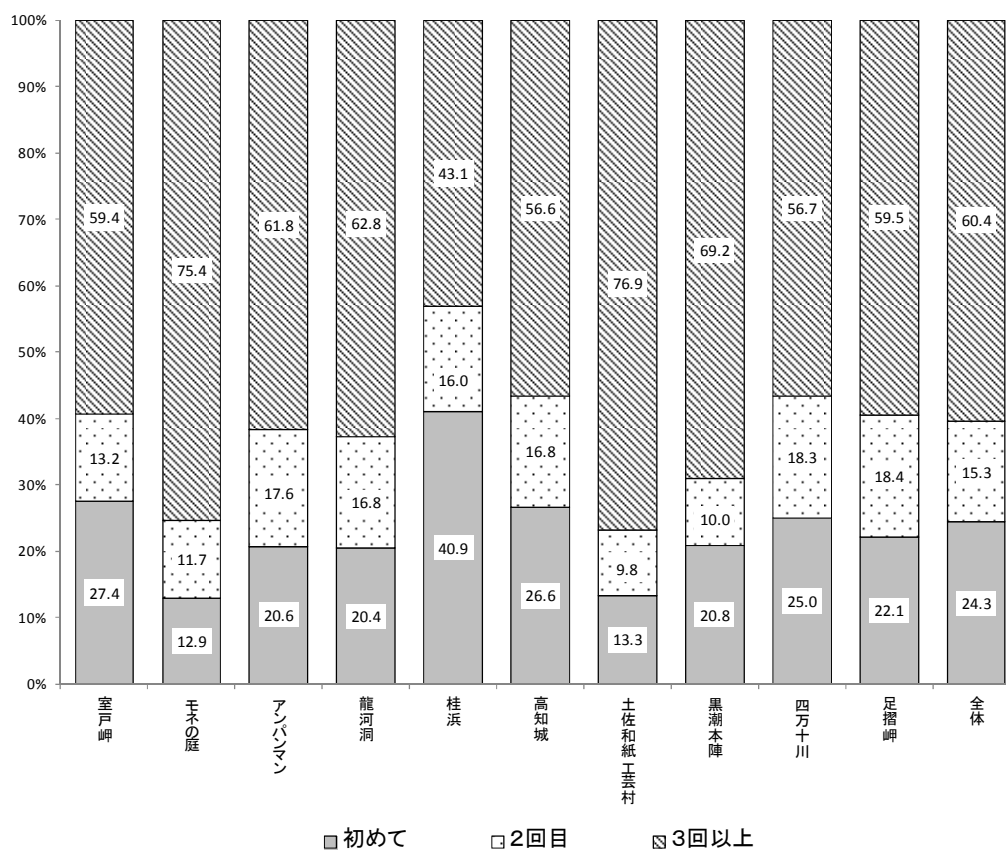
(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [24 年]



調査地別の旅行形態割合を項目別にみると、「1人」は室戸岬、足摺岬、土佐和紙工芸村、高知城で10%を超えており、「家族」はアンパンマンミュージアムが82.8%と群を抜いて多く、モネの庭、龍河洞と続いているが、すべての調査地で最も多い旅行形態となっている。「友人知人」は室戸岬、モネの庭、土佐和紙工芸村、アンパンマンミュージアムを除く調査地で20%を超えており、「団体」は室戸岬が最も多くなっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [24 年]



(参考 16) 過去来県回数割合(%) [24 年、過去 3 年間]

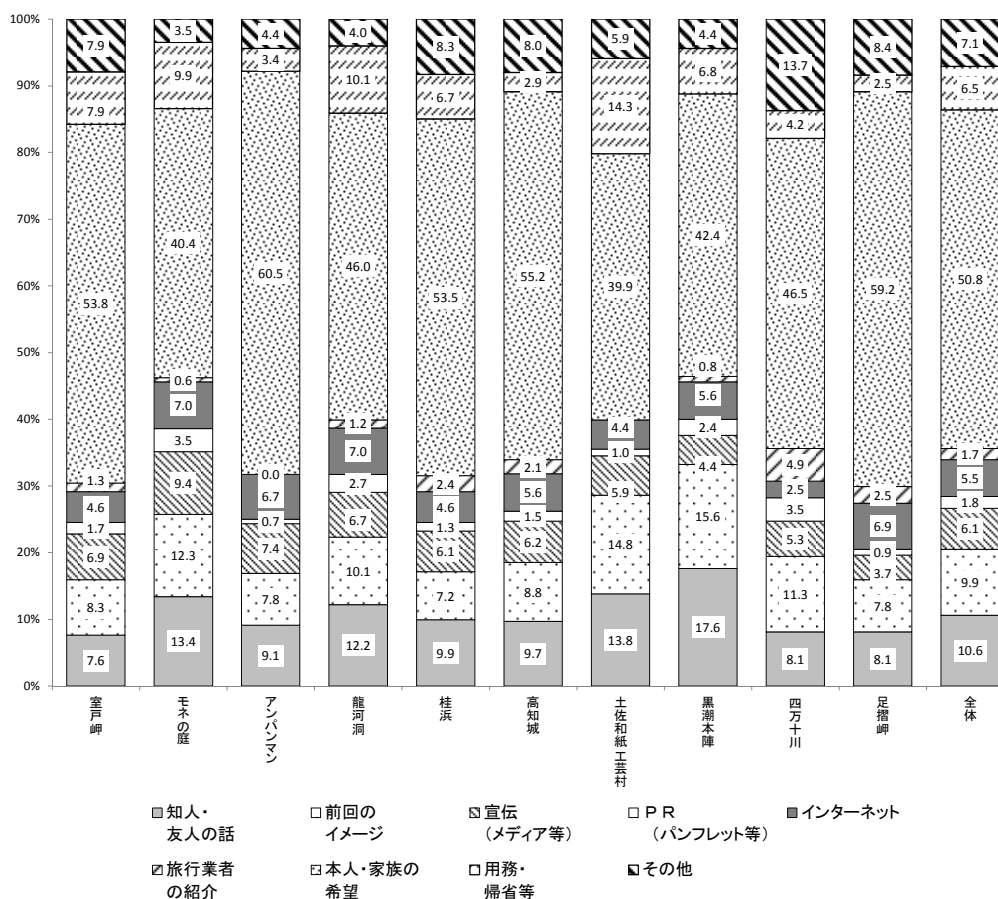
	初めて	2回目	3回以上
21年	22.4	21.6	56.0
22年	21.9	17.4	60.7
23年	24.8	15.1	60.1
24年	24.3	15.3	60.4

全体の過去来県回数は、「初めて」の旅行者が 24.3%、「2回目」が 15.3%、「3回以上」が 60.4%という結果となった。平成 21 年から通してみると（参考 16）、「初めて」の割合は過去 2 位となり、前年比で 0.5 ポイント減少している。「2回目」は前年比 0.2 ポイント増、「3回以上」は同 0.3 ポイント増となっている。

項目別で割合の多かった調査地は、「初めて」は桂浜と室戸岬、「2回目」は足摺岬と四万十川、「3回以上」は土佐和紙工芸村とモネの庭となっている。

12.4 動機割合

(図 12-5) 調査地別動機割合(%) [24 年]



(表 12-6) 調査地別動機割合(%) [24 年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	用務・帰省等	その他
室戸岬	7.6	8.3	6.9	1.7	4.6	1.3	53.8	7.9	7.9
モネの庭	13.4	12.3	9.4	3.5	7.0	0.6	40.4	9.9	3.5
アンパンマン	9.1	7.8	7.4	0.7	6.7	0.0	60.5	3.4	4.4
龍河洞	12.2	10.1	6.7	2.7	7.0	1.2	46.0	10.1	4.0
桂浜	9.9	7.2	6.1	1.3	4.6	2.4	53.5	6.7	8.3
高知城	9.7	8.8	6.2	1.5	5.6	2.1	55.2	2.9	8.0
土佐和紙工芸村	13.8	14.8	5.9	1.0	4.4	0.0	39.9	14.3	5.9
黒潮本陣	17.6	15.6	4.4	2.4	5.6	0.8	42.4	6.8	4.4
四万十川	8.1	11.3	5.3	3.5	2.5	4.9	46.5	4.2	13.7
足摺岬	8.1	7.8	3.7	0.9	6.9	2.5	59.2	2.5	8.4
全体	10.6	9.9	6.1	1.8	5.5	1.7	50.8	6.5	7.1

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合は、「本人・家族の希望」が 50.8%と約半数を占め、最も多くなっている。次いで「知人・友人の話」が 10.6%、「前回のイメージ」が 9.9%、「その他」が 7.1%、「用務・帰省等」が 6.5%などとなっている。

項目別で割合が多かった調査地をみると、「知人・友人の話」と「前回イメージ」は土佐和紙工芸村や黒潮本陣、「宣伝（メディア等）」はモネの庭やアンパンマンミュージアム、「PR（パンフレット等）」は四万十川やモネの庭、「インターネット」はモネの庭や龍河洞、「旅行業者の紹介」は四万十川や足摺岬、「本人・家族の希望」はアンパンマンミュージアムや足摺岬、「用務・帰省等」は土佐和紙工芸村や龍河洞などとなっている。

13 総括

調査で得られた旅行者の声などから、高知県観光がさらなる発展を遂げるためには、以下にあげる取り組みが必要と考えられる。

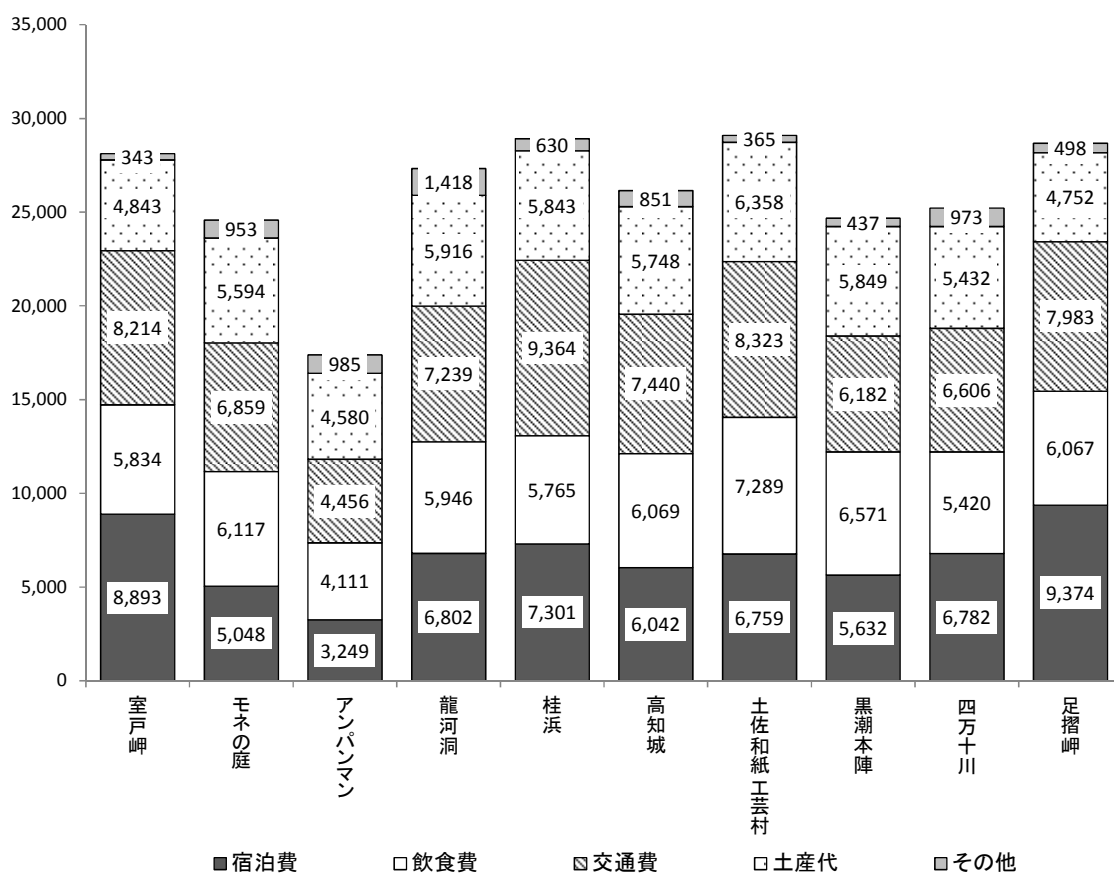
1. わざわざ宿泊したい高知県

県内旅行日数と平均消費額の関係は、ほぼ比例している。実際に、前年に比べて日帰り客が減少し、宿泊客が増加した、土佐和紙工芸村の平均消費額は12,403円の増加となっている。逆に、日帰り客が増加し、宿泊客が減少した、四万十川では4,909円減少している(参考14)。

したがって、周辺地域に同時に訪問したくなる観光スポットや施設、立寄り場所を増やすなど、高知県への長期滞在を促す工夫や宿泊したいと思わせる環境づくりが必要であると考えられる。

例えば、宿泊につながりやすい夜型イベントなどが、効果的ではないかと思われる。

(参考17) 調査地別県内平均消費額(円) [24年・費目別]



2. 旅行者の積極的な消費を促す環境の整備

調査の中で、『土産物が何でも揃う大型土産物店が少なく、買い物がしづらい』といった声が、旅行者から多く聞かれた。また、帰省客や高知県観光リピーターの方からは、『昼間に手軽に食べられる高知ならではのメニューのある店がない。いつも、来る途中で済ませてしまう』『目新しいお土産商品が無い』『インパクトのある新商品開発をして欲しい』といった、今後を期待する声も聞かれた。

旅行者の消費意欲を促すためにも、地域の特産品を活かした魅力ある土産物の商品開発、食事処の充実、インパクトある情報提供やPR環境の整備、工夫にさらに取り組んでいく必要があると考えられる。

3. 期待出来るイベント関連グッズ効果

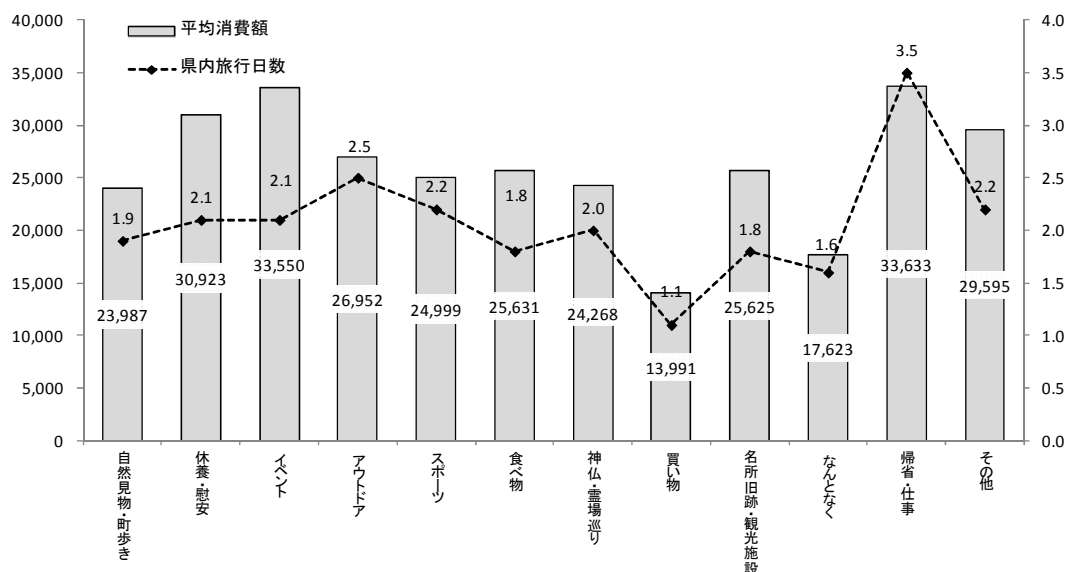
旅行目的別に平均消費額と県内旅行日数（参考 18）をみると、帰省・仕事を除く観光目的の場合、平均消費額は「イベント」の 33,550 円が際立って高くなっており、反対に「買い物」が平均消費額 13,991 円で最も低くなっている。

また少数ではあるが、興味深いものとして、リピート率の高かった“おもてなし勤王党”のファンの女性達の要望に、消費意欲をそそるグッズ販売や、サイン会、ファンの集いの企画などがあった。

県内旅行日数では、「アウトドア」や「スポーツ」が多くなっており、平均消費額と県内旅行日数の関係が、前述のとおりであることから、現状の消費額は少ないものの、今後が期待される場所である。

今後の県内消費額向上には、より多くの各種イベントを企画・開催し、それに伴う関連グッズを開発・販売することなどが、有力と考えられる。

〔参考 18〕 旅行目的別県内平均消費額(円)、県内旅行日数(日) [24 年]



Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒にの旅行ですか。※子供や乳幼児も含む

() 人
 2人以上の場合
 → 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答えください)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上

Q10. (県外にお住まいの方のみお答えください)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

また、この県を訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

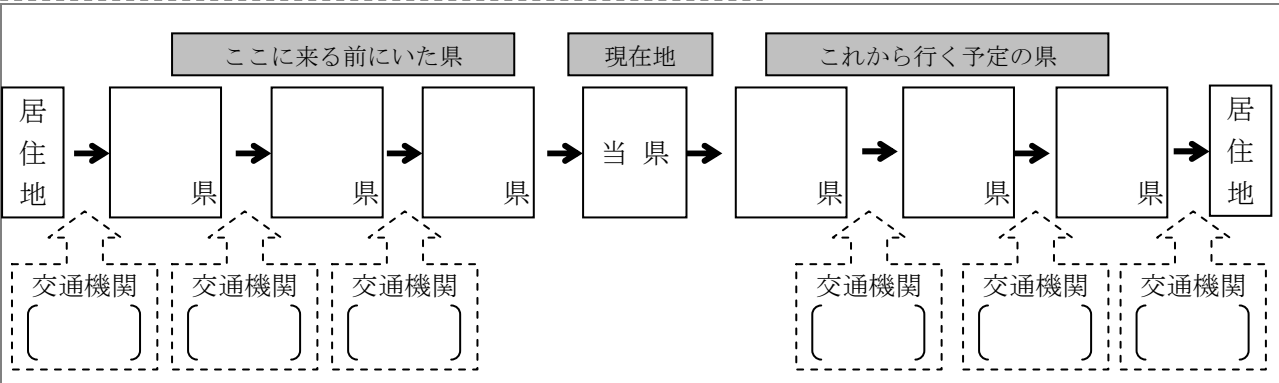
高知県までの主な交通機関 [] 高知県内での主な交通機関 []

ここに来る前にいた場所						現在地
居住地	→	→	→	→	→	調査地点
交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []
これから行く予定の場所						居住地
調査地点	→	→	→	→	→	居住地
交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []	交通機関 []

【表】交通機関

① J R 新幹線	② J R 在来線	③ 私鉄・地下鉄	④ モノレール	⑤ -1 貸切バス
⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む)	⑥ 高速バス	⑦ 市内バス・路線バス		
⑧ 路面電車	⑨ タクシー・ハイヤー	⑩ レンタカー	⑪ 自家用車、社用・公用車	
⑫ 飛行機	⑬ フェリー	⑭ バイク	⑮ その他	

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入ください



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ -1 貸切バス
- ⑤ -2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ←表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用
①交通費	(県内分) 円	(県外分)	円
②宿泊費	(県内分) 円		
③土産代	(県内分) 円		
④飲食費	(県内分) 円		
⑤入場料	(県内分) 円		
⑥その他	(県内分) 円		
⑦パック料金			円
		<input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む	

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせください）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせください

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆

※調査票コード	都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
1. 観_共通_日				:	